

養護概説の授業内容の検討 —少子化問題を理解するために—

Examination of the contents of the class on the outline of nursing care —Understanding the problem of declining birthrate—

渡辺 弥生

Watanabe Yayoi

愛知東邦大学人間健康学部

要 旨

養護概説は小児保健と学校保健の2つの側面から授業展開する。学生は「子どもを育てる喜びと護る責任を考える」機会を持つ。子どもを取り巻く環境を学ぶことで「少子化問題」を考える機会となる。養護に関する関心の程度と、少子化問題が学生にどのように影響があったかを知るため最終講義終了後アンケートを行った。関心が高い項目は、子どものメンタルに関する項目で、関心が低い項目は「慢性疾患」に関わる項目等であった。少子化問題の関心は高いとは言えず、将来の子育て意欲は、45.2%であった。しかしこの学びが「将来の子育てに役立つか?」の問いには78.6%の学生が「そう思う」と答えていることから将来の子育てをイメージすることはできていると考える。授業を通して少子化問題をマイナスイメージではなくプラスイメージにできるとよい。授業展開は、関心が低い項目やイメージしづらい内容については動画の活用や意見交換等一方的な講義では不十分であることが認識できた。

キーワード 学生 養護概説 少子化問題 学びのニーズ

I. はじめに

日本の社会が取り組むべきこととして少子化問題がある。2022年の出生数は過去最少の約78万人であった。合計特殊出生率は、2022年は1.26となり、7年連続で前年を下回った。

人間健康学部では3年次に「養護概説」を開講している。養護とは「養い護ることで、生活させ、育て、危険な状態から護る事」である。教授内容は小児保健と学校保健の2つの側面から展開している。このことから学生は「子供を育てる喜びと護る責任について考える」機会を持つことができる。学生が将来の育児への関心を持つ機会となるような教授内容とするため、学生の養護への興味関心について調査し、少子化問題や子育てへの関心が少しでも高まるような授業内容とするため、「養護概説」授業終了後アンケート調査を行った。

II. 方法

1. 研究の目的

少子高齢社会の中で、学生が将来の育児への関心を持ち考える機会となるような授業内容とするため、学生のへの興味関心について授業終了後アンケート調査を行う。

2. 調査対象者（年齢・性別・人数など）

2022年度養護概説受講学生77名（3. 4年生）女子13名 男性64名である。アンケートを行った授業（15回目）の出席者は66名でそのうち42名がアンケートに参加した。

*アンケート参加者の性別は問うていない

3. 倫理的配慮

アンケートを行う際自由参加であること、成績評価にかかわらないことを説明し、提出の際は箱を設け自由な提出を依頼する。アンケートは無記名で行った。

取得したデータの取り扱い方法：アンケートが終了後用紙は、鍵のかかった場所に保管する。

データの入力、集計後のアンケート用紙はシュレッダーにかけ廃棄する。

入力したパソコン、USBは研究室から持ち出さない。鍵の付いた棚に保管する。データは個人が特定されないように分析することとした。

本学倫理委員会で承認を得た。承認番号：愛東研第202203号

〈利益相反〉

本調査に利益相反はない。アンケートの際は口頭で説明を行った。

4. 調査内容：自記式質問紙調査である。

- (1) 授業を行った項目をピックアップし、関心の度合いをリッカート尺度5段階で回答してもらった。（5＝関心がある～1＝関心がない）
- (2) 「将来子育てしたいと考えているか」は、その理由を記述してもらう。
- (3) 「養護概説が将来の役に立ったか」は、その理由を記述してもらう。
- (4) 授業の中でもっと知りたかったことは何か」を記述してもらう。

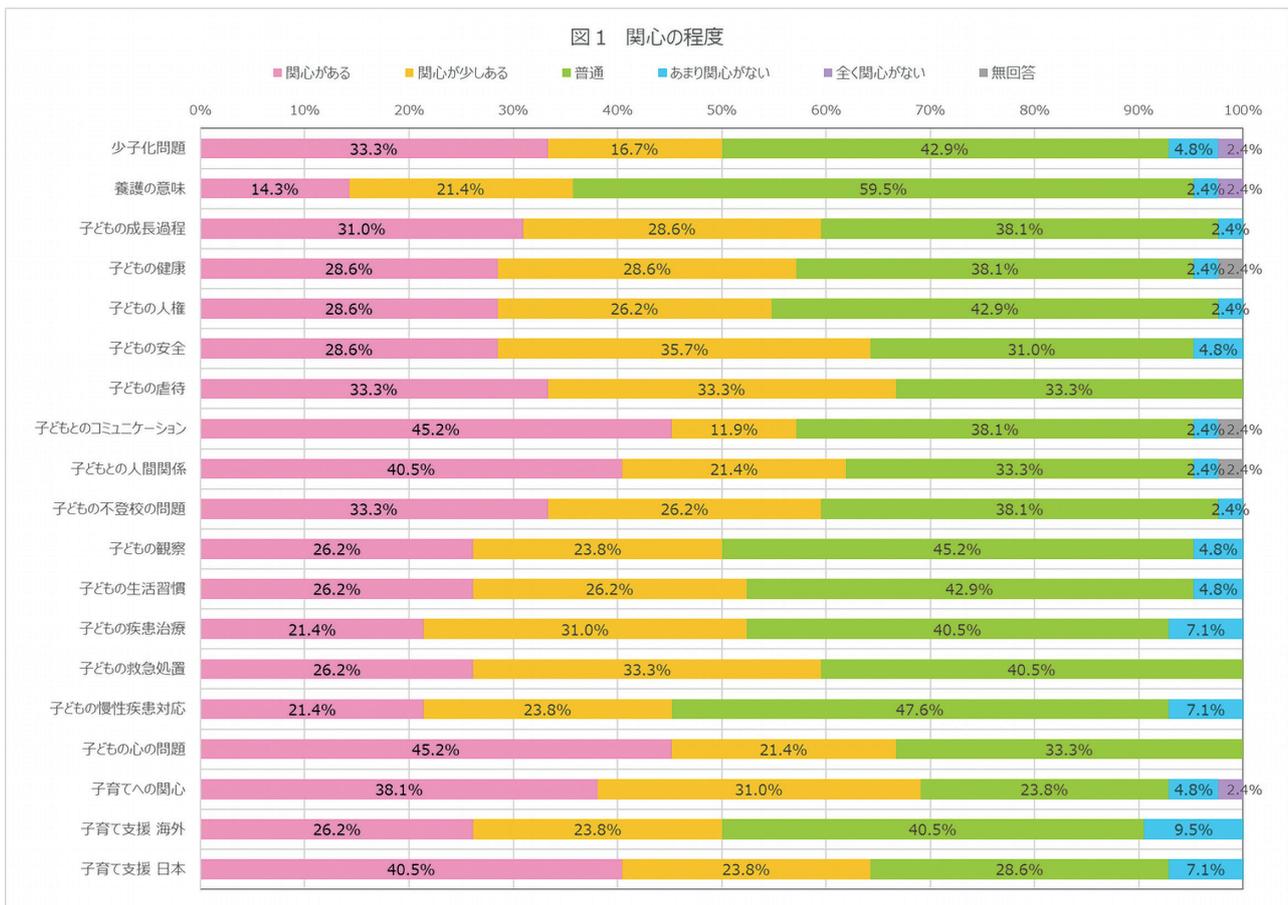
III. 結果

アンケートは、66名に配布し42名から回答を得た。回収率63.6%である。

(1) 授業で行った項目の関心の程度

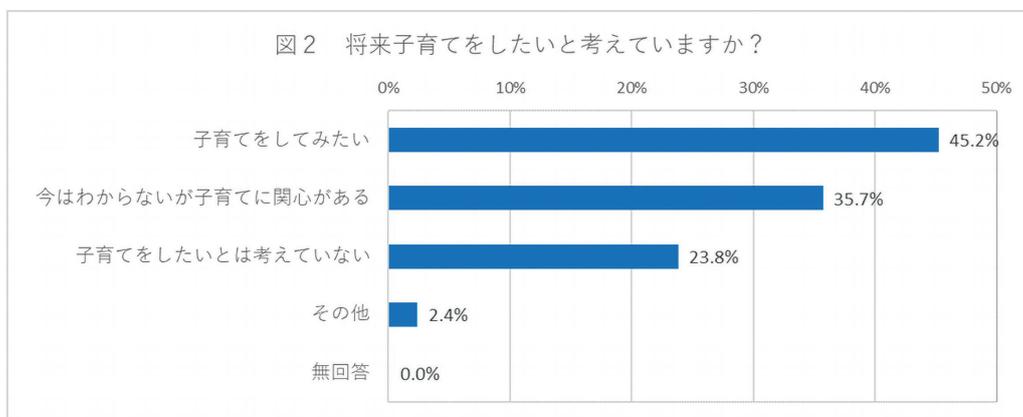
関心が60%以上（関心がある・関心が少しある）の項目は「子どもの心の問題」「子育てへの関心」「子育て支援・日本」「子どもの安全」「子どもの虐待」「子どもとの人間関係」「子どもの不登校の問題」であった。関心が50%台の項目（関心がある・関心が少しある）は、「少子化問題」「子どもの健康」「子どもの人権」「子どもの救急処置」等であった。

関心が50%以下（関心がある・関心が少しある）の項目は「養護の意味」「子どもの観察」子どもの慢性疾患の対応」「子育て支援・海外」等であった。



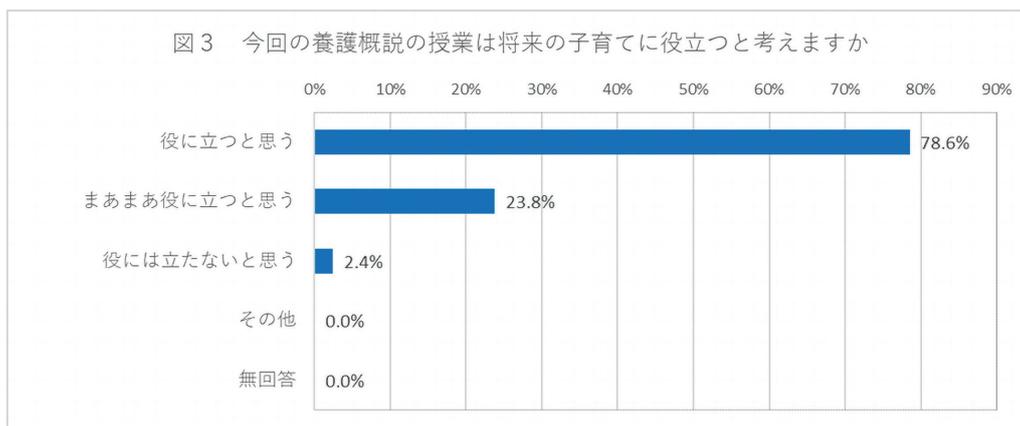
(2) 「将来子育てをしたいと考えていますか？」の問い

「将来子育てをしたいと考えていますか？」の問いには、「子育てをしてみたい」が45.2%の「今はわからないが子育てに関心がある」が、35.7%であった。「子育てをしたいとは考えていない」が23.8%であった。その理由については、「子育ては経験したい」「誰かのために行動したい」「子どもはかわいい」「親に育ててもらったから育ててみたい」一方で「一人が気楽」「責任が伴う」「お金がかかる」などの記述があった。



(3) 「今回の養護概説の授業は将来の子育てに役立つと考えますか？」の問い

「今回の養護概説の授業は将来の子育てに役立つと考えますか？」の問いには「役に立つと思う」と答えた学生は、78.6%であった。「まあまあ役に立つと思う」と答えた学生は23.8%であった。



(4) 「授業の中でもっと知りたかったことは何か？」

「具体的な子育ての方法」「子育てにかかる経済の話」「子供たちの心の成長」「不登校の問題」などが挙げられた。

IV. 考察

養護概説の授業において、関心が60%以上の項目は「子どもの心の問題」「子育てへの関心」「子育て支援・日本」「子どもの安全」「子どもの虐待」「子どもとの人間関係」「子どもの不登校の問題」であった。養護の重要な点は、子どもの安全な環境であり、子どもとの人間関係を良好にすることであることから今後も内容を充実する必要がある。「子どもの心の問題」「子どもの不登校の問題」は関連があることから関心が高くなっており、家庭と学校の両面からの予防、対策を伝える必要がある。

関心が50%台の項目は、「少子化問題」「子どもの健康」「子どもの人権」「子どもの救急処置」等であった。子どもの人権は重要な視点であるため、関心が高まるよう具体的な内容としていく必要がある。少子化問題は関心が低く、現時点で子育てには関心があってもその背景にある社会問題への関心は低いようである。しかし「子育て支援」への関心は高いことから話を聞こうという意識は見られると推察する。さらに現代社会の動きを注視し内容を充実していく必要があると考える。

若者世代の不安は「子育ての経済面」「子育てと仕事との両立」であることから現時点で子育て支援は加速していることから前向きに考えられるように具体的な情報提供を行う必要がある。養護概説で少子化問題を取り上げることは、子どものおかれている環境を学ぶ上で避けられないため、養護概説の学びで重要であることを理解してもらう必要がある。

関心が50%以下の項目は「養護の意味」「子どもの観察」「子どもの慢性疾患の対応」「子育て支援・海外」等であった。海外の子育てに関心がないことはやむをえないとしても「観察、慢性疾患」は学校内でのアレルギー対応など関心を高めていく必要がある。

今回の調査では、「将来子育てをしたいと考えていますか？」の問いには、「子育てをしてみたい」が45.2%で「今はわからないが子育てに関心がある」が、35.7%であった。日本財団は2022年12月に、17歳から19歳までの1000人を対象に、働き方や子育てなどの価値観について調査を行い、「将来子どもを持ちたい」という問いの回答は59%であったとしている。養護概説を受講することで「子育ての大変さ」を考えてしまっている可能性はある。

「授業の中でもっと知りたかったことは何か？」では「具体的な子育ての方法」「子育てにかかる経済の話」「子供

たちの心の成長」「不登校の問題」などが挙げられた。日本財団の調査では、子育ての不安の理由として「金銭的負担」や「仕事との両立」「わからない」「考えたことがない」は合わせて31%としており、本調査の学生も「お金がかかる」を挙げている。「今はわからないが子育てに関心がある」が、35.7%であったことから「子育ての大変さ」を意識し、学ぶことで考える機会となることは予測できる。

厚生労働省の15歳から39歳を対象にした調査では「将来よりも今の生活を楽しみたい」という20代の6割が「あてはまる」に回答している。今の生活を楽しみたいと考えていることは当然のことであり、子育てについて考える機会と無理強いすることはできないが、考える機会となるよう一方的な講義形式ではなく、意見交換やレポート課題を課すようにしていきたい。

現在の少子化問題は「経済的負担の軽減策の充実」、ついで「地域の子育て支援サービスの充実」「子育てに対する支援体制の整備」「仕事と子育ての両立の取り組み」を優先している。この子育て支援の内容は、日々新しくなっていることから情報を更新する必要がある。

現代の若者は少子化に対する漠然とした不安を持つ。2021年度の授業前に簡単に回答を求めたところ対象者（3.4年生）69名のうち「子供を将来育てたい」と回答したものが32名（46.4%）であった。「今はわからない」と回答した者は18名（26%）であった。「子供を育てたいとは思わない」と回答した者は14名（20.3%）であった。「将来子供とスポーツをしたい」と楽しそうに答える一方「自由な時間がない」「面倒である」「経済面が不安」と答える学生もいた。「大変である」「責任がある」という意見もあった。少子化に関する知識や、育児に関する知識がないまま漠然とした不安を持つ若者が多いのではないかと推察する。正しい知識・情報を得たうえで考える機会が必要ではないかと考える。養護概説ですべての課題が解決できるわけではないが学ぶことは考える機会となる。

「今回の養護概説の授業は将来の子育てに役立つと考えますか？」の問いには「役に立つと思う」と答えた学生は、78.6%であった。「まあまあ役に立つと思う」と答えた学生は23.8%であった。これらの回答から動画の活用や印象付ける子どもとの対応場面を見せていくことも必要である。

学生は中学などで、少子化対策の一つとして妊娠・出産・育児に関する教育についても保健体育などを中心に受けていると考える。家族の一員として家庭生活を大切にすることを育むことや子育てや心の安らぎなどの家庭の機能を理解させるとともに、これからの生活を展望し、問題意識をもって主体的により良い生活を工夫できる能力と態度で、少子化問題を考えると同時に「子供を育てる喜びと護る責任」について考える機会を持つことで将来の家族のあり方を考える機会となる。現状では育児のマイナスイメージが強い中「子育ては自分育てであること」養護概説は、本来そのことを踏まえ現状を理解し考える機会となるとよいと考える。

Ⅶ. 結論

1. 関心が高い項目は「子どもの心の問題」「子育て支援・日本」「子どもの安全」など、であり、学生のニーズに沿って具体的な子どもへの関わりを動画の活用など具体的な内容とする必要がある。

2. 関心が低い項目は、「養護の意味」「子どもの観察」「子どもの慢性疾患の対応」等であった。

学校場面では重要な項目であるので授業に工夫が必要である。

3. 「今回の養護概説の授業は将来の子育てに役立つと考えますか？」の問いには「役に立つと思う」と答えた学生は、78.6%であったことから養護の学びや少子化問題を通じて将来のの目標を検討する機会とする必要がある。

引用文献・参考文献

- 1) <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230212/k10013978801000.html> 2023 9月15日閲覧
- 2) 国民生活基礎調査<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa17/> 2023 9月25日閲覧
- 3) <https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/syousika/040908/dl/0016.pdf> 2023 9月25日閲覧
- 4) 西山千恵子, 学校教育における「少子化対策」の導入とその問題—新旧「高校保健・副教材」の検討を中心に, 立教大学ジェンダーフォーラム年報第19号, 101, 2017
- 5) 炭原加代, 西堀幸子, 新增有加, 母性看護学の現状と課題, 大阪青山大学看護学ジャーナル創刊号vol 1, 65-71 2017
- 6) 渡辺弥生 日本の少子化と看護の役割—母性看護の取り組みを考える—地域創造研究叢書No35少子高齢社会のヒューマンサービス唯学書房p100~113 2022
- 7) 岡田加奈子 河田史宝 養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践 東山書房 2017

資料

養護概説終了後アンケート

担当 渡辺弥生

このアンケートは養護概説を行う際の講義内容を検討するために実施します。

自由参加で一切成績評価にかかわらず。ご協力いただけますとありがとうございます。

参加協力はアンケートの実施をもってご了承いただいたこととします。

アンケートの実施に賛同しないことでの不利益は一切ありません。

無記名でお願いします。帰りに記載内容がわからないように箱に入れてください。

よろしくお願いします。

1. 下記の項目で関心の程度をお尋ねします。

関心が高ければ5、低ければ1のところに○をつけてください。

	5 関心がある	4 関心が 少しある	3 普通	2 あまり 関心がない	1 全く 関心がない
少子化問題					
養護の意味					
子どもの成長過程					
子どもの健康					
子どもの人権					
子どもの安全					
子どもの虐待					
子どもとのコミュニケーション					
子どもとの人間関係					
子どもの不登校の問題					
子どもの観察					
子どもの生活習慣					
子どもの疾患治療					
子どもの救急処置					
子どもの慢性疾患対応					
子どもの心の問題					
子育てへの関心					
子育て支援 海外					
子育て支援 日本					

2. 将来子育てをしたいと考えていますか？

いずれかに○を記入してください。

- (1) 子育てをしてみたい。 ()
- (2) 今はわからないが子育てに関心がある。 ()
- (3) 子育てをしたいとは考えていない。 ()
- (4) その他 ()

上記の理由は何ですか？簡単にお答えください。

3. 今回の養護概説の授業は将来の子育てに役立つと考えますか。

- (1) 子育てをする場合、役に立つと思う。 ()
- (2) 子育てをする場合、まあまあ役に立つと思う。 ()
- (3) 子育てをする場合の役には立たないと思う。 ()
- (4) その他 ()

3. 養護や子育てについてもっと知りたかったことがあればキーワードなどで記述してください（簡単でいいです）

ご協力ありがとうございます